令和元年度　授業評価アンケート分析

令和元年１０月実施

＜結果と分析＞

	課題・成果等	改善策・向上策・目標等
国語	昨年度より「当てはまる」と回答した質問が多い。生徒の実情に沿った指導に向けた工夫の成果が出つつあるのだと思われる。しかし、全ての質問において「あまり当てはまらない」の回答数が増加している。一人一人が毎回の授業の目標に向かって集中して取り組めるよう、よりきめ細かい指導が必要である。	授業の目標を明示し、それに向かってどのように学んでいくかをより分かりやすく提示していきたい。スモールステップを積み重ねて学習の達成感を味わわせ、集中力を持続させていくことが必要だと思われる。また、机間指導など個別指導の時間を増やし、一人一人の学力に沿った指導を重ねることも必要である。
社会	アンケートで「よく当てはまる」「だいたい当てはまる」が多くの項目で昨年度を上回ることができた。特に，質問番号４、８、９の三項目では１００％を達成した。その一方で「よく当てはまる」「だいたい当てはまる」の割合が９割を下回ったのが「分かった」「できた」と「授業に集中できる雰囲気」という昨年度と変わらない課題が残った。	アンケート結果で、「よく当てはまる」「だいたい当てはまる」が９０％に満たなかったのは、授業理解と授業に集中できる雰囲気が該当する。授業で「わかった」「できた」と理解させるために、テーマに迫る具体的な資料を効果的に提示したり、理解できたことを確認したりして授業を進めていきたい。また、授業に集中できる雰囲気をつくるためにICTを活用した視覚的な教材づくりを積極的に行っていきたい。
数学	本校の生徒は、数学の義務教育段階の学習内容の定着が不十分な生徒が多く、学び直しに力を入れている。「授業に集中できる雰囲気である。」に対する回答結果の「あまり当てはまらない」「当てはまらない」の合計が、一昨年69.2%、昨年45.9%、今年38.5%と減少しているが、まだ高い数字である。今後も雰囲気づくりについて検討したい。	一昨年度、生徒が授業に集中できない原因のひとつとして、適切な難易度の授業が出来ていないのではないかということを考え、特に1年次で、学び直しは行うが、難易度を上げた。その結果、満足感や緊張感をもって授業に臨める生徒が増えたのではないかと思う。今後も生徒にとって「わかった」と実感できる満足感のある授業ができるよう、難易度などを生徒の実態に合わせて工夫したい。
理科	生徒自身が授業に取り組もうとする意識が若干ではあるが増えた。また、学習内容に対して「わかった」「できた」という達成感が不足していると感じる生徒がいることから，学習教材の工夫と展開の工夫が必要である。	授業の進行速度は合っており，理解の助けを増やすため，学習内容や単元の目標を明確にし，個々に合った対応をすすめる。また，ＩＣＴ機器の使用など教材の提示など工夫を図り，実験・観察等をして，体験的に理解ができるような教材を展開する。
英語	昨年度に比べて項目1,8で肯定的回答が増加し、毎時の授業の目的が理解され、生徒も授業に前向きな姿勢で取り組んでいると思われる。その一方で、項目2,4,9で否定的回答が依然２割程度存在しており引き続き生徒の授業理解を促すような取り組みが必要である。	授業の始まりの際に授業目標を簡潔に生徒に提示し、生徒の目的意識を明確にする。また、教員からの一方的な授業に陥らないように生徒に質問を投げかけたり、理解度を確認しながら授業を進める等、双方向のコミュニケーションを通して生徒の授業理解度を向上させていきたい。
保健体育	昨年度の課題であった質問6「成績の出し方がはっきりと示され、適切に処理されている」が改善された。全ての項目で高い数値を示している。これからも丁寧で規律ある授業を展開していきたい。	質問3「授業でわかった、できたと思うことがある」の項目で、「よくあてはまる」が60%と、他の項目よりやや低い数値を示した。教員から褒めるのではなく、周囲から賞賛の声を挙げることができる雰囲気作りに努めていきたい。
芸術	生徒は積極的に取り組むものの、アクティブラーニングで集中できなくなっている。集中できる環境作りを行う必要がある。	教材を改良し、班分けや教室内の座席、活動時間の配分を工夫する。大きな声でゆっくりと指示を出すよう留意する。
家庭・福祉	大部分の項目で９割の生徒が「よく当てはまる」，「だいたい当てはまる」と答えている。今後も維持できるようにするとともに，生徒の理解につながるよう実態に応じた授業展開の検討が必要である。	単元毎に小テストを実施し，生徒の理解度を丁寧に把握するよう努める。その結果を基に復習を繰り返し行うなどして，生徒の「わかった」，「できた」という達成感につなげたい。また，簡潔な指示や丁寧な説明など分かりやすい指導の工夫を今後も行う。
農学	概ねの生徒が授業の各項目に一定の満足を示している。一方で、人数は少ないものの、授業に集中できる雰囲気という点について満足できていない生徒がいることは課題として検討していかなければならない。	課題としては、最優先として授業の内容をしっかり理解できるような空気を作ることが重要である。授業空間の規律を見直して、理解力の高い生徒と、そうでない生徒の進度に差が開かないように反応を確認して補足を行い、全体の理解度を確かめながら進めていくことが重要であると考える。
機械	昨年度と比較すると，２・３の項目で当てはまらないの項目にチェックを入れる生徒が増加している。調査の対象科目を機械工作と製図にしており，県内の機械科のなかでもどのようにして生徒に興味・関心を持たせるかテーマになる科目でもあることから，授業展開に工夫が必要である。また，６の項目については，何に起因するものか更に調査し改善策を示す必要がある。	機械工作や製図の授業では，本年度後期よりICTを活用して授業を展開している。視覚的に訴えかけることで生徒に興味・関心を持たせ，理解を深める一助となっている。今後も更にICTの活用を進めていき，２・３の項目について改善を図りたい。またこのことにより６の項目についても改善が見込まれる。加えて，授業規律の徹底と教材研究の充実を図りたい。
商業	昨年度の結果より各項目とも「よく当てはまる」と答えた生徒の割合が16.5%から7.3%減少しており、全体的な対策が必要だと考える。特に、教え方や質問に対する答え、評価の仕方などの落ち込みが激しく、「わかった」「できた」と思うことがあるについて、「当てはまらない」、「あまり当てはまらない」と答えた生徒が2割ほどいることから、その対策に力を入れていきたい。	今年度は宿題を課し小テストを行うことで学習内容の定着を目指してきたが、宿題の提出割合が少ない学年があったことから、今後は宿題の意義を確認し、家庭学習を定着させ「わかった」と実感し、学習意欲を喚起できるよう努めていきたい。また、すべての項目で評価が下がっていることについても、生徒の状況を確認し、教科内で協議を重ねながら、わかりやすい授業を目指して、対策を講じていきたい。
情報	昨年度と比較して，その日の授業で行う内容や評価について理解しているに「よくあてはまる」「あてはまる」と答えた生徒の割合が減少した。授業前や各考査ごとに説明を行っているが、より丁寧に繰り返し示すよう対策する。また、教員の指導がわかりやすいと答えた生徒が９割以上いることから、今後も生徒一人ひとりに合った指導を心がけていく。	今年度はパソコンを使用しての実技を苦手とする生徒が多く見られた。そのため、Ｔ２の先生と協力して机間指導を多く取り入れた。しかし、ローマ字がわからない生徒やスマートフォンの普及によりタイピングを苦手とする生徒も多く、毎時間の宿題の定時や導入にパソコンの実技を行うなどの工夫をしていく。